

デیلیー・ジーザス・ニュース #310

金曜日... 苦悩と贖罪の日

イエスの三段階のユダヤ人裁判

ユダヤ人裁判の第3段階: サンヘドリンの前で...

イエスはサンヘドリンによって正式に死刑を宣告される

ルカ22.66-71 (並行テキスト : マタイ27.1、マルコ15.1A、ヨハネ18.24)

=====

66^朝早く、夜明けとともに、民の長老たち、祭司長たち、律法学者たちによる議会 (サンヘドリン) が集まり、イエスが彼らの前に連れて来られた。

67彼らは言った。あなた」はメシアですから、教えてください。」

イエスは答えた。 」私があなたに言ったとしても、あなたは私を本当に信じるはずがありません。 68 そして私があなたに質問したとしても、あなたは正直に答えるはずがありません。

69しかし、今から後、人の子は全能の神の右に座ります。 (詩篇 110.1; ダニエル 7.13)

70彼らは皆、 」それでは、あなたは神の子なのですか」と言った。

彼は答えました。 」私はあなたの言うとおりです。 」

71そこで彼らは言った。 」なぜ、これ以上の証言が必要なのか。私たちは彼自身の口からそれを聞いたのだ。 」

^Mこうして全サンヘドリンはイエスを死刑に処す決定を下した。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

| | |
|-----------|--|
| 位置 | サンヘドリンの部屋 |
| タイムライン | 4月上旬 (39ヶ月目) |
| イエスの生涯の文脈 | 第8段階：受難週 |
| | E. 金曜日：苦悩と贖罪の日 |
| | イエスの三段階のユダヤ人裁判 |
| タイトル | ユダヤ人裁判の第3段階: サンヘドリンの前で... イエスはサンヘドリンによって正式に死刑を宣告される |

今日の朗読は、イエスがサンヘドリン全体から正式な裁きを受け、死刑を宣告された様子を描いています。まさに夜明け前の暗闇の中で、まさにその裁きは行われました。イエスが指摘したように、この裁きは司法の偽善のもう一つの顕著な例でした。

主は疲れ果てていました。前夜、弟子たちと宣教の最も深い真理を分かち合うために、心と精神を開かれました。そしてゲッセマネで、生涯で最も熱烈な祈りを捧げ、何時間も心を注ぎ出されました。真夜中過ぎに逮捕され、手首を背中に縛られた主は、もう6時間もそこに縛られたままでした。主は夜通し、絶え間ない尋問によって精神的に試され、嘲笑され、激しく殴打され、あらゆる方法で辱められました。主はこれらすべてを一人で耐え忍んでいましたが、新たな証人、尋問者、そして虐待者たちが、まるでタッグチームのように夜通し主を苦しめていました。

夜明け前の空が夜明けの訪れを予感させる中、イエスはエルサレムのサンヘドリンの正室に連れてこられ、ユダヤ人の「裁判」の第三段階にして最終段階に臨んだ。今回はサンヘドリン全員が召集され、イエスに判決を下すためだった。そこはイエスにとって暗く、恐ろしい場所だった。まるで獲物を殺そうと唸り声をあげる狼の群れのように、敵に囲まれていたのだ。

カヤパとサンヘドリンの代表者たちは夜、彼の庭に集まっており、すでにイエスを冒涇の罪で告発し、死刑に同意していた。今回の集会は単なる形式的なものではあったが、律法の文言は満たしていた。

イエスは以前、ひどく殴打されていましたが、精神的に打ちのめされたわけではありませんでした。いかなる非難に対しても弁明を拒否し続けましたが、同時に偽善に対しても真実をもって立

ち向かいました。サンヘドリンがイエスの身元について語るよう迫った時、イエスは彼らに二つの力強い言葉を述べました。

まず第一に、彼らがイエスを信じるはずはなかった。イエスが何を言っても。イエスが何よりも望んでいたのは、彼らがイエスを信じ、イエスが命をかけて実現しようとしていた救いを受け入れることだった。しかし、彼らはそれを受け入れようとしなかった。そこでイエスは彼らに告げた。

第二に、彼らは自分の質問に、彼らが自分に求めるような誠実さで答えるはずがないと断言した。それはあらゆる点で全くの偽善であり、民の指導者たちがこれほどまでに卑劣な行為に及ぶのを見るのは、彼の心を痛めた。こうした瞬間、彼の懸念は依然として彼らに対するものであり、自分自身に対するものではなかった。我々が主は栄光に満ちていた—それは彼の最も輝かしい瞬間だった。

イエスは再び詩篇110章1節とダニエル書7章13節を引用されました。特に詩篇110章は示唆に富んでいました。ユダヤ文化において、同じことを三度繰り返すことがいかに拘束力を持つかを見ました。イエスをご自身についてこの聖句を引用されたのは、これで三度目でした。

最初の問いは、ちょうど3日前の火曜日—「試練と教えの大いなる日」—に、同じ指導者たちに向けてイエスが最後に問いかけた問いだった。イエスはこの聖句で彼らを困惑させ、永久に沈黙させた。また、その夜、カヤパの前で行われた裁判の第二段階でもこの聖句を引用していた。そして今、イエスは全サンヘドリンの前で、恐れることなく三度目の質問をした。

さらに、イエスは、自分が神の子であるかどうかという彼らの問いかけに対し、「わたしはある」という表現を繰り返しました。イエスは何も隠そうともしませんでした。彼らはすぐにイエスが神から与えられた主張を認め、カヤパと同じように皆で「**これ以上の証言は必要だろうか。私たちは彼の口から直接それを聞いたのだ**」と言いました。この「良い告白」はイエスの運命を決定づけました。イエスは自分が何者であるかについて真実を語ったのです。

この短い審問で、イエスの裁判におけるユダヤ人側の審問は終了した。アンナス、カヤパ、そしてサンヘドリン全員による審問までの三つの審問は、夜通し続いた。真夜中の審問、被告への暴行、横行する偽証、真実と正義の完全な無視など、ユダヤの律法に反する行為が数多くあった。これらはすべて見せかけであり、次の日没までにイエスを死なせるためにあらゆる手段を講じるための口実だった。

「偽証してはならない」「主の名をみだりに唱えてはならない」と命じた神に忠誠を誓うと主張した同胞の精神的指導者たちよりも、異教徒であるローマ人によってはるかに公正に扱われたのです。神の栄光は、人間の卑劣な罪深さとは対照的に明らかにされていたのです。

応用：

誤って告発され、即座に誤りであると判断された場合、どのように対処しますか？

怒りは、ほとんどの場合、自分に対する個人的な不当な扱いに対する反応です。あなたは怒りを感じていますか？

あなたの主であり、模範であるイエスをここに見てください。イエスは真実をもって不正に立ち向かいましたが、怒りではなく愛によって動かされました。

この応答において、あなたはどのように主に従うべきでしょうか？主の赦しと恵みにおいて、誰に思いやりを示すべきでしょうか？

あなたは、事実をすべて明らかにせずに、虚偽の、あるいは早まった判断で他人を非難したことがありますか？ユダヤ人指導者がイエスを扱った方法と比べてどうですか？